

主体的に学習に取り組む力を養う  
↳指導と評価の一体化に向けての試み

徳島県立富岡西高等学校 国語科

## 一 本校の概要

富岡西高校は126年の歴史を持ち、地域に根ざした特色のある教育実践を行っています。校訓「質実剛健」と学校目標「文武両道」は、生徒たちの意識にも浸透しており、学校生活のあらゆる場面で、素直で前向きに活動に取り組む姿勢が見られます。

進学型単位制を取り、生徒数は590名で、各学年、普通科四〜五クラス、理数科一クラスが設置されています。

令和元年度よりSSH校の指定を受け、理数科を中心に、学校全体で課題研究や授業改善に取り組んでいます。

- 1 -

## 二 ねらい

### (1) 研究のきっかけ

SSHの研究を進める中で得ることができた「指導と評価の一体化」の視点をもって、国語科の目標と対応させ、教科指導に落とし込んでいきました。具体的に、生徒にどのような力を付け、どのような授業を実践していくべきかということ为国語科で共有しつつ指導計画を立てました。

### (2) 生徒の実態

年度末にSSHでアンケートを実施しました。「あなたは、物事

を客観的にとらえ、科学的・論理的に考える力が以前より増したと思えますか」の項目で、令和元年度から令和二年度にかけて、教員は「そう思う」という割合が増えているのに対し、生徒には変化がありません。（理数科の生徒が増えているのは、理科実験等の課題研究の成果であると思われる。）教員は生徒に論理的思考力を付けるための授業を意識的に実践し、実際に生徒に力がついてきたと感じているにもかかわらず、生徒にその実感がわからないのはなぜか、それは二つの原因が考えられます。一つは、生徒が自分の力を客観的に評価することに慣れていないこと、もう一つは、「論理的思考力」とは、具体的に何ができる力なのかを生徒が理解していないことにあると考えました。従来の評価では、この理解につながるフィードバックがなく、評価が生徒の自己認識に生かされていないと考え、指導と評価をどう一体化させていくかということ、改めて課題として認識しました。

### (3) 生徒に付けたい力

#### ① 論理的思考力

本校のSSHの目標の中に「科学的思考力」を身に付けることが挙げられています。国語科では「データや数字」を「言葉」と置き換え、「言葉」を手がかりにして思考する力を「論理的思考力」と捉えました。

生徒たちは、評論を読む際に、自分の理解できる言葉だけをつなぎ合わせて、独りよがりでの外れな読みをしてしまうことがあります。そこで、本文中に書かれている「言葉」を手がかりにして、筆者の主張や論拠をつかむ力を付けていくことを、国語科の目標としました。これは、新学習指導要領にある「言葉による見

方・考え方を働かせる」ということにもつながると考えます。

## ②主体的に学習に取り組む力

生徒たちの学習に向かう姿勢として、教師の発問に答え、その答えがまとめられた板書をノートに写すことでよしとする受け身の姿勢が見られます。そこで、生徒が自分の力で文章を読み取り、読み取った内容について、自己評価・修正をし、次の学習活動に生かしていくというサイクルを作ること、生徒が主体的に学習に取り組む力を養えるのではないかと考えました。これは新学習指導要領の「学びに向かう力」のベースになります。

また、「主体的に学習に取り組む力」については、「生徒が自己調整できること」「生徒が粘り強く取り組むこと」を評価すべきポイントとしました。具体的には、後述の「ルーブリック」と「振り返りワークシート」を活用し、学習を組み立てました。

## (4) 評価の在り方

SSHの評価計画に、「評価の在り方を教師の視点と生徒の視点から検討する」ということが挙げられています。そこで評価に関する研修が次のおり実施されました。

○令和二年度教員研修（令和二年十一月六日）

「授業評価の視点・留意点と授業改善への生かし方」

講師 鳴門教育大学大学院学校教育研究科

教授 川上綾子先生

パワーポイント評価やルーブリック、ポートフォリオなどの実践を紹介していただき、その方法や効果について研修しました。

○令和三年度教員研修（令和三年十一月二十六日）

「教育評価」

講師 鳴門教育大学大学院学校教育研究科

教授 前田洋一先生

評価とは、まず目標が明確であって初めて意味をなすものであり、評価の在り方を根本から考える研修となりました。

これらの研修を受け「指導と評価の一体化」の必要性を改めて実感しました。そこでSSHの評価計画の中にある「生徒自身で自らの学習を振り返って次の学習に向かう自己改善ができるようにする」ということに着目し、次の二つを学習に取り入れることにしました。

## 〈1〉ルーブリック

今回、生徒が自己評価するためのツールとして「ルーブリック」を活用しました。はじめは、富岡西高校国語科として、どの学習活動にも使えるものを作成しようと意気込んだのですが、難しく挫折しました。そこでまずは、単元ごとに使えるルーブリックを作成し、生徒の実態を見ながら改良していくというやり方に変えました。

ルーブリックを作成するにあたって気をつけたことは、ルーブリックが「生徒のできるようになってほしいことが、生徒にも分かるものになっているか」ということです。生徒たちがやっていることは自己評価ですが、同時にそれは、評価の規準を示すことで目指したいことを共有する、つまり国語の授業でつけるべき力を、生徒と教師が共有するためのツールとなります。そして、このルーブリックを活用し、生徒が「自分のできるようになったことが分かる」ことで、自分の学習を自己調整していく力につながる

ると考えました。

## 〈2〉振り返りワークシート

授業で扱う教材を、一つ一つ別のものとして捉え完結させるのではなく、年間のテーマをもって読むことで、文章を読む意義を考え、それが学習に主体的に取り組み力につながると思えました。

評論教材を学習し終えることに、「現代を考える」要約と気づき」というワークシートを書かせました。これは、年間通して一枚（たくさん書く生徒は用紙を継ぎ足していく）のシートに書き綴っていきます。

令和三年度の一年間は「現代を考える」をテーマにして、それぞれの評論が現代のどのような課題と向き合い、若い世代に何を伝えようとしているのかを、実生活と結びつけて考えることを目的としました。ワークシートを振り返ることで、一年間の自分の読みの深まりを実感できればと考えました。

また、「振り返りワークシート」を通して、文章を書くことに慣れ、書くことへの抵抗感を減らせるのではないかと考え、この学習が「生徒の粘り強く取り組む力」につながると期待しました。

## 三 実践

### 〈1〉「ループリック」の活用

【対象】令和二年度入学生（一年次から二年次にかけての実践）

一学年六クラス（普通科五クラス・理数科一クラス）。本発表にかかる授業実践の際には、できるだけ全クラスで授業計画やループリックを共有し指導を行いました。

- 5 -

## 【事前の指導】

○令和二年度入学生が使用した教科書

一年次・・・第一学習社『高等学校 改訂版 国語総合』

二年次・・・第一学習社『高等学校 改訂版 現代文B』

本教材に入る前に、評論では「水の東西」「ものごとことば」「文化」としての科学」「『間』の感覚」「ネットが崩す公私の境」「自分の身体」の学習を行いました。評論読解の基本（対比の構造・具体と抽象・接続詞などを押さえ論拠と主張を読み取ること）は授業や補習などで学習・演習しています。

教師の板書は、後に生徒自身に文章構成図を作成させることを意識して、生徒がイメージしやすいような板書を心がけました。また手がかりになる言葉に記号を入れたり、線を引いたりしながら本文を読むという習慣が付きつつあります。

実践Ⅰ 「デザインの本意」【国語総合】・・・7時間

学習課題を設定し、ループリックを用いて自己評価する活動を行いました。

1 内容読解（3時間）

2 記事を書く（3時間）

資料①授業指導計画

3 ループリックで自己評価（1時間）

資料②ループリック

資料③生徒作品

## 【成果と課題】

○具体例を探すときに、「本文の言葉を根拠にする」ことを意識させました。そのことにより、生徒は「デザインとは何か」につい

- 6 -

て筆者が述べている本文中の表現を何度も確認しながら、具体例を探していました。

○グループで意見交換する際も、「根拠とした本文中の表現」と「具体例」をセットにして話し合うことで、根拠をもとにして自分の考えを述べる力を養うことができました。

×学習課題の内容を欲張りすぎたせいで焦点がぶれ、何を書いたらよいか、生徒が混乱しました。

×ルーブリックの言葉が抽象的だったことから、生徒が評価すべき事柄を理解できず、正確な評価につながっていないところもありました。

#### 実践Ⅱ 「自他の『間あい』」【現代文B】・・・2時間

今回は学習内容を、本文を読み「文章構成図」を作ること、ルーブリックで自己評価し修正することの二つに絞りました。

文章構成図を作成する際には、対比の構造・比喩や類比を見つけ、矢印などの記号を使って、一目見てその関係が分かるように配置することを意識させました。また、本文中の表現をそのまま長々と書き抜くのではなく、ポイントを絞って簡潔に抜き出すことも意識させました。

ルーブリックは、新学習指導要領の「生徒に付けたい力」の三つの観点を意識して、枠組みを見直しました。(資料④)

#### 【成果と課題】

○ルーブリックの項目を具体的にしたこと、生徒自身が自己評価しやすくなりました。

○短時間で効率的に学習することができました。教科書に掲載されているすべての文章を丁寧に読めるわけではないので、年間計

- 7 -

画の中でめりはりを付けることができます。

×詳細な説明に慣れている生徒にとっては、自分で文章構成図を書くことが学習の中心となることへの不安が見られました。ルーブリックの評価項目を工夫することで、どのような力が付くのかを生徒が意識しながら学習に取り組めるようにすることが大切です。

#### 実践Ⅲ 「日本人の『自然』」【現代文B】・・・3時間

今回は、ルーブリックを用いてグループで相互評価を行い、それに基づいて文章構成図を修正するという活動を取り入れました。

1 筆者の主張を読み取る手がかりになる箇所を線を引きながら本文を読む。(1時間)

2 文章構成図を書く。(1時間)

3 ルーブリックを用いて相互評価する。(資料⑤) (30分)

4 自分の文章構成図を修正する。(30分)

#### 【成果と課題】

○相互評価を取り入れることで、より客観的に評価することができました。

○他の生徒の文章構成図を参考に、分かりやすい文章構成図を作成するための工夫を考えることができました。

×本文を一通り読んだだけでは、文章構成図を書きあぐねている生徒が数名いました。机間巡視による個別指導でようやく書き始めることができましたが、文章構成図を書ける生徒と書けない生徒との間に差がつき始めました。

↓そこで別のクラスでは、本文の内容や文章構成を読み取ることを補足説明しながら文章構成図を書かせました。すると誰一人

滞ることなく一時間で書き上げることができました。最終的には本文を読んで一人で文章構成図を書けるようになってほしいですが、まだその段階ではない生徒もいます。文章構成図を書く際に、どの程度の支援がいるか、生徒の実態を見ながら考える必要があると感じました。

×今回の取組では、生徒の自己評価に焦点をおきましたが、今後は完成した文章構成図に対して、教師の評価をどのようにしていくかが課題となります。観点別学習状況の評価項目の一つとして、今後活用できるように検討したいと考えます。

#### 実践Ⅳ 『集合知』という考え方【現代文B】

本校では令和三年九月に電子黒板が導入されました。今回はICTの活用ということも授業の中に取り入れていくことになりました。

電子黒板に教科書本文を投影し、着目すべき言葉や表現に線を引いたり記号を付けたりすることで、対比の関係や主張と論拠の関係について、視覚的に提示できるようになりました。

資料⑥ 授業指導計画

資料⑦ ルーブリック

資料⑧ 生徒AとCのノート

#### 【成果と課題】

新型コロナウイルス感染拡大という社会情勢の中で、公開授業が中止になり、授業はオンラインで実施しました。普段電子黒板に投影している教科書本文を画面共有し、本文中のポイントになる箇所に線を引きながら簡単な解説を行った後、生徒たちは自宅で文章構成図を書き、ルーブリックで自己評価をしました。

後日、ノートとルーブリックを提出させましたが、予想以上にしっかりと文章構成図を書くことができており、力が付いてきていることを実感しました。

〈2〉振り返りワークシート「現代について考える」要約と気づき」の活用(資料⑨)

○令和三年度(生徒は第二学次)の実践

○使用教科書 第一学習社『高等学校 改訂版 現代文B』

『自明性の畏』からの解放」「自他の『間あい』」「日本人の『自然』」「存在としての建築」「手の変幻」「働かないアリの意義がある」『集合知』という考え方

○ワークシートには、要約と気づきの書き方の例を付けました。

要約(例)・・・現代とは( )な時代である。  
現代とは、( )が課題である。筆者は  
( )していくことが必要だと述べている。  
気づき(例)・・・だから私は( )と考える。  
改めて( )に気づいた。

〈ワークシートの活用とフィードバックの工夫〉

#### 【一学期】

・要約が文章構成図の流れをなぞっただけのものが多く、筆者の主張を書いていないものもありました。

↓文章の流れではなく、筆者の主張を要約することとし、要約の仕方についてのプリント学習を一時間行いました。

・「気づき」が筆者の主張を繰り返しているだけのものや、単なる感想で終わっているものが多く見られました。

↓要約・気づきについて、うまく書けている生徒のものを、プリントにまとめ紹介するようにしました。

【二学期】筆者の主張を本文中から探すことはできているのですが、本文の言葉を抜き出しているだけで、その意図するところが十分に理解できていないものが見られました。気づきが筆者の主張とずれている生徒が目立ちました。

↓文章構成図を書くだけでは、内容について理解できているとは言えないと分かり、生徒の文章を手がかりにして、理解が十分であるところを補足しました。

【三学期】臨時休校や分散登校等で、ワークシートを書かせっぱなしになり、生徒への十分なフィードバックができませんでした。 - 11 -

#### 【成果と課題】

○テーマをもって振り返りが行われることで、生徒が常に一つの視点をもって評論を読み、進んで思考を深めようとする姿が見られました。

○生徒一人一人が本文の内容についてどれくらい理解できているかがよく分かりました。

○時事問題についての生徒の関心度がよく分かります。生徒の書いている内容についての新聞記事などを紹介したり、探究活動につなげたりすることで、学びを広げることができると考えます。

○毎回十行（三百字程度）以上書くことにしています。書くスピードが上がり、書く分量も次第に増え、書くことに対する抵抗感

が減ってきました。教材のテーマに興味を持つ生徒がかなりの分量を書くのはもちろん、書くことが苦手な生徒も、「とにかく三百字程度なら文字を埋めるのが苦にならない」ようになってきました。また、字数を意識して書く癖もついてきました。

×生徒へのフィードバックに工夫が必要です。今は、よく書いていたものをプリントにして次の時間に全員配布していますが、今は、ダブルレットを使って記録・共有する方法も考えたいです。（資料⑩生徒DとGのワークシート）

#### 四 まとめ

##### 【生徒たちの感想】

令和三年度の授業評価の際に、文章構成図やループリック、振り返りワークシートを活用した学習についての感想を書きました。

##### ◇肯定的な感想

・接続詞、対比の関係、キーワード、言い換えの部分など、大事なところに線を引きながら文章を読む癖が付き、文と文の関係に気づけるようになってきた。

・文章や文字をただ追うだけでなく、この段落は何を伝えたいのか、全体の中でどんな役割なのかなど、まとまりを意識して読めるようになってきた。

・筆者の言いたいことを意識して読むことができるようになり、文全体の内容を理解するのが早くなった。

・文章構成図を作るのは難しいけれど、だんだん書けるようになってきて、文章の理解度が上がってきた。

・文章を長々と書くのではなく、コンパクトにまとめられるよう

になった。

・文章構成図を書くことで、頭ではふわふわしたものを言語化できるとなった。

・模試の記述問題で、前より書けるようになった。

・「振り返りワークシート」では、要約がスムーズに書けるようになった。

・みんなの「気づき」を読んで、自分では思いつかないような視点や考え方を知って、ためになった。

・明確な具体例が出てきやすくなった。

・「現代を考える」というテーマにつなげることで、文章を自分なりに一般化させることができるようになった。

・「現代を考える」というテーマで世界の出来事にも目を向けられるようになった。

・授業中に一人で考えてノートに書いたり、友達と意見交換をしたりする中で、考える力が付いてきたような気がする。

#### ◇否定的な感想

・正直めんどくさい。

・以前のように板書してくれる方が分かりやすい。

・自分が書いたものが合っているのか分からない。

・教科書の文章を抜き出してまとめているだけで、本当に力が付いているのか実感がわかない。

・文章構成図は、一度本文の内容を学習した上で作るのなら復習になるけれど、自分ではじめから文章を読み取ることは背景なども分からないし難しい。

・「気づき」が思い浮かばない。

生徒に付けたい力として「論理的思考力」と「主体的に学習に

取り組む力」を挙げました。「論理的思考力」については、文章の構成やまとまりを意識して筆者の主張を読み取る力が付いてきました。生徒自身も、具体的に何ができれば「論理的思考力」なのかを意識して学習に取り組めるようになりました。次は、「読む力」だけではなく、小論文などの「書く力」へとつなげていきたいです。

「主体的に学習に取り組む力」については、ルーブリックにより、国語力を「具体化・見える化」することで、生徒自身が自分の「できるようになったこと」を意識しやすくなりました。「国語は何を勉強したらよいのか分からない」「力が付いたのかどうか分からない」という生徒の声をよく聞きますが、単元ごとに目標を具体的に設定し、生徒自身が目標達成度を評価することのできる仕組みが、生徒の主体的に学習に取り組む力につながると実感しました。また、振り返りワークシートを活用することで、他の生徒の意見を知り視野の広がりを感じることもできた生徒も多く、今後も協働的な学習を取り入れることが有効だと考えます。

今回の取組を通じて、単元ごと、授業ごとに、生徒にどのような力を付けたいのかを、しっかり意識して授業を組み立てるようになりました。また、生徒の文章構成図・ルーブリックによる自己評価・振り返りワークシートなどにより、生徒の理解度が目に見えるかたちで把握でき、次の授業に向けて改善すべきことが明確になりました。指導と評価の一体化というには、まだまだ不十分ですが、今後も生徒たちの実態を見ながら、自分の授業の改善に努めたいと思います。

## 五 参考文献

- ・文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校国語』
- ・明治図書『平成三十年版学習指導要領改訂のポイント 高等学校 国語』高木展郎編著
- ・学事出版『高等学校教科と探究の新しい学習評価〈観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集〉』西岡加名恵編著
- ・日本標準『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価〈「見方・考え方」をどう育てるか〉』西岡加名恵・石井英真編著